

11月16日(金)

本日も2つの講義をしていただきました。1つ目は上智大学の丸山英樹先生の「Influences by International Surveys; Possibility of non-Formal Education」という題目の講義でした。日本がどのようにPISAショックから学力の向上を遂げたのかという話から、学力が高いと言われているフィンランドの教育についての話まで、幅広い話を非常にわかりやすくしていただきました。日本の教育だけでなく、他の国の事例にまで議論が及んだことで、学力の向上をもたらす教育とは何なのかということを考えるきっかけを与えてくれた講義となりました。



丸山先生の講義のあとは、上智大学からJICA東京に戻り、ベネッセ教育総合研究所の谷山和成先生から「Education in Japan: The Current Status and Challenges」という題目のもと講義をしていただきました。膨大なデータを手がかりに、近い将来起こりうる社会の変化を前提に、これからの世代を担う人々に求められる能力とは何かについて話していただきました。研究員もたくさんの質問を交えながら集中して講義を受けておりました。



講義後のリフレクションの時間でも「教育は人々の価値観を変化させる可能性があるが、難しい面もたくさんある。しかし、これからの社会の変化や私たちが迎える困難に対応するための能力を身につけることは、教育によって可能だ」という意見がありました。研修員は、講義を通して、改めて教育の必要性やこれからの社会を見通した上で必要な教育とは何かを考えられておりました。明日は東京で迎える初めての週末になります。来週に備えて、これまでの振り返りを行いながら、研修員がリフレッシュできる時間になることを望みます